

令和元年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 幸和会	代表者	理事長 横尾 幸久	法人・ 事業所 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の本当の気持ち(ニーズ)を理解し、思いやりのある対応を心掛けています。 ・利用者様もスタッフも、明るく笑顔でいっぱいの雰囲気作りを目指しています。 ・職員への研修を充実させて、介護の質の向上を図っています。 ・地域の行事やイベントに積極的に参加しています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 ふるる	管理者	木原 章博		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	3人	3人	0人	0人	0人	0人	2人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な状況に応じて、必要な介助が提供できるように、研修等行っています。 			利用者様の情報やニーズについて、利用する前の情報だけではなく、また家族様も知らない地域環境も含めた情報があるため、信頼関係を構築し、本人様、家族様、近隣の方からしっかり情報の聞き取りを行えるよう心掛ける。
B. 事業所のしつらえ・環境	特に改善点はなし。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は厳しい状況ですが、昨年地域の方との交流も多く、ホールを使ってもらうなどして地域の方が中に入り易い環境になっていると思います。家族の方の面会も、昨年は変わらず面会が出来ており、今年はコロナ禍の中、少しでも面会できる工夫がされていて、家族様も安心しているのではないかと思います。 ・運営推進会議で来ている限りですが、臭いや音についても特になく、来た時には全く不快な感じはないです。 ・普段は鍵がかかっている、外からは入り易いが、中からは出難くなっている。近くに幹線道路があ 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ来ても綺麗にしていると思います。施設見学の方からも「出来て何年ですか」と聞かれるほど聞き、外部の清掃業者に任せていることで、掃除もしっかり出来ていることがわかりました。 ・職員が知らない間に利用者様が外に出てしまい、迷子や交通事故に合うリスクも考えた上で、扉の開閉は内側からはスイッチを押さないと開かないことがわかりました。利用者様が出たい時には職員と一緒について出る事ができるので、気になるほどではないと思いました。 	特に改善点はなし。

		り、出てしまっからの事故を考えての事と聞き、理解できました。また散歩などを多く行くことで、「出られない」という気分にならないよう配慮出来ているのではないかと思います。		
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の徹底を行っていきます。 ・災害時のかかわり、協力体制について、地域の方と話をしながら構築していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員はよくあいさつもできており、地域の行事やイベントにも参加できています。また、事業所自体が地域の方にも良く知られており、近隣で何か困りごとや相談ごとがあった場合には、事業所に相談に来られる方もいるという話を聞きました。 ・運営推進会議で災害時のかかわりや協力体制についての検討はしています。今後もより良い方法を考えていきたいですね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年はコロナウイルスの事もあって、地域の行事が相次いで中止となっています。運営推進会議も今回久しぶりに再開できたので、まずはこの会議で情報の共有をしていき、地域の行事が再開された時には、ぜひ遊びに来て下さい。 	特に改善点はなし。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	特に改善点はなし。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年はコロナ禍でなかなか難しいところだと思います。その状況でも、工夫をして外出レクリエーションを行なっていることが素晴らしいと思います。 ・近隣の方が相談に来ることも、度々あるようで、その後利用につながったとの話も聞き、ふるるが近所に口コミ等で良く知られている証拠であり、素晴らしい事だと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも地域の行事やイベントには、職員さんが中心となって利用者様と一緒に参加してくれています。そして利用者様と職員さんが一緒になって楽しんでいる姿をよく目にします。そして利用者様の知り合いの地域の方も中に入って話が弾んでいる様子に、本人の暮らしを支えているのだと思わせられる光景です。コロナ禍の中でそういったことが難しいと思いますが、利用者様が地域で暮らしていることの楽しさを継続できるよう頑張っしてほしいです。 	特に改善点はなし。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の運営推進会議で、地域の心配な方の話についての話題提供と検討の時間を設けます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で、各事業所の報告後に地域の心配な方についての話し合いの場が設けられています。話題として出ることもあれば、出ないこともあります。そこから認知症についての話などもしてもらっているので、実際に相談を受けた方を紹介しています。 ・地域での取り組みについて、お祭りや防災訓練などに参加して、地域での取組みと一緒に取組んでいってくれています。更に準備や片付けにも積極的に参加してくれているので、地域からも助かっていると聞いています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での心配な方は、いろいろと耳にするので、運営推進会議で話が出来ていて、実際にお任せすることもあったので、安心できています。今後もそういった方の話は出てくると思うので、引き続き聞いて頂いて、地域が安心してお願いできるように対応してもらえればと思います。 	<p>特に改善点はなし。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した防災計画の作成。それに基づく事業所の防災計画を検討します。 ・事業所の防災訓練に、地域の方の参加を出来るだけ促していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の防災訓練には参加できていません。年2回の防災訓練に予定を合わせるの難しいのが現状です。 ・地域の防災訓練にはいつも積極的に参加してくれているので、今後もよろしくお願ひしたいです。 ・災害時、事業所は第一に現在入居している方々を守ることに専念されると思います。その状況下で地域住民が助けを求めても難しいのではないのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が起こった際、地域も事業所もそれぞれの対応に追われ、お互いが助け合うことは難しいのではないのでしょうか。ましてやこのコロナ禍では、外部から人が入ることは難しいと思います。 ・現時点で災害が起こった場合、やはり外部の方を事業所内に入れることは、感染リスクが高まるので、事業所としてもかなり難しいところとっております。 	<p>感染症流行時の災害対策を考える必要がある。</p>